

■高校野球のケーススタディー（第18回）■



一般財団法人兵庫県高等学校野球連盟

高校野球における公式試合や練習試合の中で生じたプレイの中で、“こんなプレイ、ルールではどうなるの？”といった疑問について、ルールの側面から解説します。

○ 第3アウトのとき、タイムプレイで得点が入った後、他のアピールアウトがありました・・・第3アウトの置き換え

4月にある高校で行われた練習試合でとても珍しいプレイがありました。ルールの知識を深めるため、紹介しておきます。

2回裏、1死1、3塁。右打者が放った打球は、右中間への飛球となり、中堅手がややライトの方向へ走りながら、ダイレクトで捕球し、2死となりました。

1塁走者は、投球と同時にスタートを切り、2塁を回ったところで捕球されたのを見て、再度2塁ベースに正しく触れ、1塁への帰塁を試みましたが、中堅手からの1塁への送球が早くアウトになりました（3死）。

その間、3塁走者は、タッグアップで本塁へ到達。1塁走者の第3アウトよりも3塁走者の本塁到達が早く、球審は得点1が入ったことを明示しました。

この後、3塁手は、3塁走者のリタッチ（離塁）が早かったと判断し、1塁手にボールを要求し、3塁ベース上でアピールを行いました。3塁手のアピールの結果、3塁の審判員は、3塁走者が正しいリタッチを果たしていなかったと判定し、アウトを宣告しました。

さて、このケース、すでに1塁走者のアウトにより3アウトとなっていますが、3塁走者のアウトはどう扱われるのでしょうか。また、すでに明示された3塁走者の得点はどうなるのでしょうか。

この一連のプレイには、様々なルールが混在していますので、ポイントして、①タイムプレイと②第3アウトの置き換えについて整理して考える必要があります。

それでは、まず「タイムプレイ」から見ていきましょう。

1塁走者は、リタッチ（離塁）が早かったため、1塁ベースに戻ろうとしましたが、中堅手から1塁へ送球され、1塁走者の触塁よりも1塁手のベースへの触球が早かったため、アウトになりました。

この第3アウトは、フォースアウトではなく、アピールアウトになる(5.09(c)(1))ことから第3アウトと3塁走者の本塁到達のどちらが早いかを球審は判定することになります。(規則5.08(a)【注1】)

このケースでは、3塁走者の本塁到達が早かったため、球審は得点が入ったことを明示しました。



次に、「**第3アウトの置き換え**」について見ていきましょう。

その後、3塁手は、3塁走者のリタッチ（離塁）が早かったとしてアピールを行いました。そして、3塁の審判員は、このアピールを支持し、この走者をアウトにしました。

公認野球規則 5.09(c)では、次のように規定されています。

第3アウトが成立した後、ほかにアピールがあり、審判員がそのアピールを支持した場合には、そのアピールが、そのイニングにおける第3アウトになる。

また、第3アウトがアピールによって成立した後でも、守備側チームは、このアウトよりもほかに有利なアピールプレイがあれば、その有利となるアピールアウトを選んで、先の第3アウトと置きかえることができる。【第3アウトの置き換え】

このケースでは、1塁におけるアピールアウトよりも3塁におけるアピールアウトが守備側に有利になることから第3アウトを後者のアウトに置きかえることで、得点1を取り消すことになったのです。

球審も3塁におけるアピールアウトが成立した後、本塁付近で「No run score（ノーランスコア）」のコールとゼスチャーにより、得点にならなかったことを明示し、先の得点を訂正していました。

なお、イニングが終わったときのアピールは、守備側チームのプレーヤーが競技場を去るまでに行わなければなりません。

つまり、投手および内野手がベンチに向かうために、フェア地域を離れるまでに行わなければ、アピール権は消滅することになります。（規則 5.09(c)本文）

もし、この場面で1塁での第3アウトによって、投手を含めた内野手が、そのままベンチに下がっておれば、3塁リタッチのアピール権は消滅し、得点が入っていたことになります。

第94回の全国高校野球選手権大会（2012年度）では、3塁走者が投球と同時にスタートを切っており、リタッチが早いことが明らかであったにもかかわらず、1塁走者のアウトで3死となったことにより、内野手があるままベンチへ引き上げたため、アピール権が消滅し、得点が記録されたことがありました。

今回の事例では、守備側の選手が、ルールをよく理解し、アピール権が消滅する前に落ち着いて判断したことがポイントになりました。

ルールをよく知ることで、得点を防ぐことができることを改めて感じさせられたプレイでした。

また、今年度の春季兵庫県大会において、姫路球場で行われた準決勝でも、次のような場面がありましたので、紹介しておきます。

1死2、3塁の際、センターフライで中堅手がダイレクトで捕球（2死）。双方の走者は、中堅手の捕球と同時にリタッチを果たし、次塁へスタート。中堅手は、3塁へ送球し2塁走者は3塁ベース上でタッグアウトとなりました（3死）。

球審は、2塁走者のアウトよりも3塁走者の本塁到達が早いと判断し、即座に得点が入ったことを明示しました。

各審判員は、その後、3塁走者のリタッチに関して「アピール権の消滅」となる時点を確認していましたが、このケースでは、3塁走者に対するアピールが行われることはありませんでした。

3塁走者のリタッチに対して疑義がなく、アピールには至りませんでした。今回、解説した事例のように「第3アウトの置き換え」につながる事象は、日頃の試合の中でも起こり得ます。

選手皆さんは、体力や野球技術の向上に努めるとともに、このような場面に遭遇したときに冷静な判断ができるように、日頃から正しいルールの習得に努めましょう。



表題デザイン・イラスト協力：兵庫県立姫路工業高等学校デザイン科

表題デザイン：日下部 心咲さん（3年）

イラスト：桂 楓杏さん（3年）日下部 心咲さん（3年）